

# 会 議 録

## 1 会議名

令和2年度第4回有田区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

### 【報告事項】

「公の施設の再配置計画」の策定について（公開）

## 3 開催日時

令和2年9月24日（木）午後6時30分から午後7時30分

## 4 開催場所

上越市カルチャーセンター ミーティングルーム

## 5 傍聴人の数

1人

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 熊木敏夫（会長）、市川 禅（副会長）、五十嵐里枝、池田憲雄、  
内山幸一、荻原慶一、栗間良子、佐藤正知、杉林文義、高橋邦夫、  
高橋秀樹、平井弘一郎、藤井英夫、山崎栄一（欠席者4名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小池係長、  
霜越会計年度任用職員  
行政改革推進課：南雲課長、島田副課長  
スポーツ推進課：田中課長、石田副課長

## 8 発言の内容

### 【中村センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

### 【熊木会長】

- ・挨拶

- ・会議録の確認：栗間委員、佐藤委員に依頼

議題【報告事項】『公の施設の再配置計画』の策定について」担当課へ説明を求める。

【行政改革推進課：南雲課長】

- ・挨拶

この説明は、昨年10月から11月にかけて、市内全28の地域協議会に伺い、説明したもののだが、この度、委員の改選があったことから改めて説明するものである。

- ・資料No.1 「公の施設の再配置計画」の取組についてに基づき説明
- ・資料No.2 「公の施設の再配置計画における各施設の方向性」に基づき説明

小・中学校、保育園については、この公の施設の再配置計画とは別に検討することとしており、今回の再配置計画の対象外としている。

【熊木会長】

説明に対し、質問等を求める。

【佐藤委員】

財源の不足分を基金の取り崩しをしていく予定だという説明があったが、基金も無尽蔵にあるわけではないと思う。どの程度の基金があるのかお聞きしたい。

【行政改革推進課：南雲課長】

財政調整基金について、財政計画では令和2年度から4年度までの3年間で49.6億円の取り崩しを予定している。

現状として令和2年度末の財政調整基金の見込みとして約103億円という金額になっている。

他の地域協議会において、幾らあれば安心できるかという話もあったが、これについては不測の事態に備える、例えば今回のコロナ禍での経済対策や各種政策に充てる部分もある。今回、103億円という数字になった要因として、昨冬は小雪であったということもあり、除排雪費用が予想したよりも浮いたので、それを積み立てに回すことができたものである。

年度末の見込みで103億円という状況だが、計画の中でも今後、取り崩さないと予算が組めないという状況であり、幾らあるから安心できるというものではなく、そういった意味からも今後の財政状況を考えた中で、公の施設の再配置については、しっかり取り組まなければいけないということで説明をさせていただいている。

【佐藤委員】

103億円というと、たくさんあるという感じがするが、上越市全体で103億円なので少ないと思った。大事に使っていかなくてはならないと実感している。

**【高橋秀樹委員】**

多くの施設が現状維持として記載されているが、この表では根拠がよく分からない。こういう施設管理の中で大変なことは、利用率と建屋を建てて何年か経つとメンテナンス料が幾ら掛かるか。それを基準にしていると思う。

それを令和3年から令和12年までずっと継続と記載されているが、ここのメンテナンス料は、例えば、建屋だけでなく草刈り一つにもお金が掛かる。そういうことを考えた時に「ここでは危ない」とか「ここではお金が発生する」というものが、この資料では分からない。

ただ現状維持と記載されている施設については縮小されていくのか。もっと現状維持を長くしていくためには、例えば、利用者を増やさなければならないとか、カルチャーセンターの場合だと、5年ぐらい前から修繕が必要と言っていた雨漏りが、やっと屋上の防水工事を行っている。早めに手を打たない限りどんどん中身が傷んでくる。そういうものが見えないで「現状維持である。皆さんいいですか」と言っても、担当者は数年経つといなくなる。そういうことがちゃんと引き継がれて「今のカルチャーの建物からいくと、令和7年ぐらいまでは大丈夫だが、その時に大きな工事が必要である」とか必ずストーリーがある。そういうものをきちんと示していただかないと、そんなにお金を掛けてまで使うのか。途中で地元の町内会や他に譲渡してと記載されているが、町内会にそんなにお金があるわけではなく、そんな簡単にいかない。市は、自分たちにお金がないからと町内会にお願いされても、町内会でもお金がない。そうすると、今ある設備をどうやって維持するか、維持費がこれぐらい掛かっているから、この維持費をどうセーブしていくかというものが出てこない、この資料は省略し過ぎていて現状維持をする理由がよく見えない。ここで危ないというのが見えない。正直言ってこれを見て安心したのは確かである。有田区に再配置の該当施設が少ないから安心したが、4、5年経ったら急に駄目だと言わないで欲しい。一番気になるのはそこである。

**【行政改革推進課：南雲課長】**

現状維持とした施設について、「利用状況であったり施設の築年数や、その維持管理がどうなのか、その辺の資料の提示がない」という質問かと思うが、本日、具体的な数字としては示していないが、今回の再配置を考える中で、公共関与の必要性をまず第1に

考えている。その他に地域ごとの配置のバランスや老朽化の状況、耐震の状況、利用実績、施設の収支状況等、全体を見た中で検討を行っている。

昨年、有田区に配置している施設の利用状況や維持管理費等の資料をお渡ししたが、この度、委員の改選もあったことから、改めて現状の施設の状況をお示ししたいと思う。なお、市のホームページの「公の施設のデータブック」に、各地区の施設の状況や延べ床面積、敷地面積、築年数等の詳しい状況が載っているので、ぜひそちらもご覧いただければと思う。

それから、今回策定する計画の中に、1人当たりの公費負担額など具体的な数字を施設ごとに示しながら、計画に載せていくのでご理解いただきたい。

現状維持とするに当たっては、いくつかの視点を持ちながら検討を行い、方向性を今回出させていただいた。

**【熊木会長】**

他にないか。

**【高橋邦夫委員】**

資料No.1の、公の施設の状況の中で、今後40年間の維持・更新費用試算額が約4,325億円と記載されている。これは再配置計画に載らない現在のものもそのまま使用した場合の費用が4,325億円掛かるという意味か。

**【行政改革推進課：島田副課長】**

4,325億円は平成26年を出発点として、この金額を試算している。その中には、平成26年度中に現存していた施設を含め積算している。この積算方法は、総務省から配布されたシミュレーションソフトに基づいて算出している。

**【高橋邦夫委員】**

今、総務省のソフトを基にしてやったというが、今後40年間というよりも、計画は10年間だから10年間で示して、例えば、現状のまま全部の施設をそのまま維持した場合には、維持費と更新費用が幾らぐらい掛かるのか。ところが、この再配置計画の中で、(1)の中に、10年間くらいで991施設から260施設を減らした。今度、再配置計画で施設名が実際に俎上に上がっても、地域から反対があったり、状況が変わったりして数値が変わると思うが、例えばその次の10年間でどれくらい減らす予定なのか。そうすると維持更新費用試算額は10年間で幾らだったのが、これくらいまで減らすことができるというのがあると、もっと説得力があるという感じはする。

40年間なんて誰も生きていない時代の話をしていても困る。先ほど非常に変化が激しいと言っているのに、現実性のない数字という気がする。

総務省で示しているのだから仕方がないのかもしれないが、計画期間は10年で、5年後に見直しでは間に合わないのではないか。その辺は、どんなお考えなのか。

**【行政改革推進課：南雲課長】**

総務省のソフト等では10年単位の計算ではなく、40年間での積算となっている。

公の施設の再配置計画については、上位計画に市の公共施設等総合管理計画があり、その計画期間が15年で、最終年度が令和12年度ということから、計画最終年度に合わすことで今回10年間という計画にさせていただいた。

再配置数については、ある程度の目標というものがあっていいのかもしれないが、再配置に当たっては、施設を利用されている利用者や団体、地元の町内会などの関係者に対し、年間の利用料、利用人数、維持管理経費がどれだけかかるかという説明をして、再配置の方向性をご理解いただいたものの積み上げが最終的な計画に載ってくることから、決して数字ありきで取り組んでいないことはご理解いただきたい。

**【高橋邦夫委員】**

最後の説明は分かる気がするが、それを減らすというか再配置計画であるから、例えば、上越の現状で考えると、これくらいの施設がいくつあれば良い、人口的や地域的なことを考慮すると、こういう施設はこういう場所に置くと指定するのは難しいのか。何施設くらいが望ましいだろうということだと、どちらかという、前向きな計画だと思う。これは財源がないから減らすだけの計画で、駄目だったら減らさないというレベルの話で後ろ向きの感じがする。ここには、新しく施設を作る予定は特に入っていない。だから、本当に再配置計画ということになれば、その地域に見合った施設が用意されているのか。そういうことがないと、なかなかうまくいかないのではないかと。もっと前向きに、上越市は、これからこんなふうにしていくというビジョンが感じられない。数値があるわけではないということだが、減らすことありきな部分はある。最初にあった財源不足だということが前面に出てきている。そうではなく、施設の再配置というのは施設をどのようにして、きちんと造って、こここのところに新しいものが必要だ。ここで一緒に統合して良いのではないかとというのが再配置の計画ではないかという気がするが、いかがか。

**【行政改革推進課：南雲課長】**

再配置計画は今ある施設をどうしていくか方向性を定めるための計画である。例えば、体育施設で、ある区においては2つ3つあるというところもあり、ある区では1つだということであれば、そこはやはり集約していくべきだろうということ、今回の計画の中でも、集約に向け進めている。ただ全体を通してこの地域にこの施設が必ず1つ必要だとか、そういうところまでは、実際のこれまでの地域の繋がり等もあるので、細かな計画というものはない。ただ公民館については、各区に1つということ、今回、社会教育課でもその線に沿った中で今回の再配置計画について進めているところである。

**【高橋邦夫委員】**

有田地区は他の地区と違って人口がどんどん増えてきている。今ここに現状維持と出ている現状施設と、新たに新規で公での施設を造って欲しいという要望を出した時に、どんな取り扱いになるのか。これは認められないとか、計画にないからという形なのか。それとも、これについては再配置計画とは別途で考えることができるのか。そういうものは考えてあるのか。

**【行政改革推進課：南雲課長】**

この度の公の施設の再配置は、現在ある施設についての今後の財政状況、また、人口減少を考えていく中で、どう再配置を進めていくかということであり、新たな施設については、スポーツ関係であれば、教育委員会の中で今後の整備について考えていると思う。カテゴリーごとに考えは変わってくるかと思うが、新たに造る施設の取り扱いについては再配置の取組と異なることから、お答えできないところである。

**【高橋邦夫委員】**

それで、先ほどの5年ごとだと少し長過ぎるのではないかということ、話をした。新しいものが出てくると、そのまま5年後までは見直しできないというようなことでは困る。それから、今、たまたま教育委員会に関わる施設が圧倒的に多いが、教育委員会がそう思っても実際には、それは受けられないということがあらかじめ分かっていると地元としても相当長期の見通しを持ちながら、新しい施設でどんなものが必要なのかというのは、まさに地域協議会の大事な課題になってくるのかという気がする、何らかの機会にこういう方向性があるんだということを教えていただければありがたい。

**【熊木会長】**

他にないか。

**【高橋秀樹委員】**

今のお話もそうだが、この資料の中で現状や課題でこれだけお金が掛かっているという書き方をしているながら、991施設が731施設になって、その効果がどれだけ出たかが何も書いてない。今後、厳しい税収の中でこれだけ減らしていく方向で、どれだけ財源が出るという、財源の話が一番最初に持ってきていたら、そういうものが書いてないこと自体がおかしい。

それと、例えば有田区で言うなら、現状維持だが、メンテナンス料も含めて、管理費に幾ら掛かっている、だから、ここのところ押さえないと心配だとか、そういう話がなかったら困る。そして、利用度がどう上がっていく見込みなのかとか、利用度が高いから住民からの要望があれば残すだとか、そうすると地元としては、その施設をフルに使うにはどういう仕掛けをしなければならないかを考えられる。利用者がいなければその施設がなくなる可能性が高い。現状維持という答えだけ出すのではなく、減ったらこれだけ財源がセーブできた、しかし、このままいくと、これだけ財源が大変である、といった説明をしてほしい。だから、10年先なんてとんでもない話で、5年後にはメンテナンス料で費用が発生する。だから、10年後に駄目になったらお金はどうしようかも含めて、建て替えてくれるのかとか、いろいろ出てくるのではないかと。

そういう情報がない中で、いきなり現状維持という記載をすること自体が非常に分かりづらいし、皆さんも元データがあるかもしれないが、現状維持にしている1番の理由は、有田区は、例えば人口が多くて、活用度が高いからこれはそのまま残すとかということが何もなくて、ただ、現状維持ということが一番気にかかる。そこのところは、ホームページを見てくださいますとは言っても、ここは残すが、すごくメンテナンス料が掛かっているから心配だというような情報がないと困る。或いはここは利用者が思ったほどいない。もっと活用がなければ駄目だというのは、例えば、有田地区にはスポーツ公園に野球場がある。どれくらい借りていて、どれくらいの人を使っているか知らない。例えば、カルチャーセンターの中であれば、体育館や部屋をどれくらい使っていて混んでいるかは分かる。でも屋外はどれくらい使っているか分からない。サッカー場もテニスコートもあるのは知っているが、どれくらい埋まっていて、どれくらい維持費が掛かっているか分からない。屋外は壊れても雨漏りしないが、屋内はカーテンなども含めて建物は悪くなる。そういうのは目に見えるが、そういうものを少しコメントしてほしい。私に言わせれば、すごく不親切な資料である。その辺のデータを入れた上で情報がほしい。

**【行政改革推進課：南雲課長】**

効果額の数字を示していないのではないかというお話があったが、今回、令和3年度からの計画についての数字は、今まさにその再配置の方向性を地域協議会に示しながら、関係者との協議を進めて計画を策定している最中であり、具体的な数字は出てはいない。ちなみに前回の計画で平成27年度から30年度の数字としては、累計の効果額で6億6,000万円ほどということで試算している。

今ほど施設ごとの維持管理経費であったり利用料であったり、現状維持するにしても、その中で、施設ごとの状況をもう少し詳しい説明があったほうがいいのではないかというお話があったと思う。先ほども申し上げたが、今回の公の施設の再配置計画の中で、どこまでの範囲でお答えできるかわからないが、施設の状況を可能な範囲で数字は出していきたいと思う。

**【熊木会長】**

他にないか。

**【佐藤委員】**

高橋秀樹委員の話聞いていて本当に最もだと思った。再配置の教育プラザの多目的広場だけの説明ではなく、我々を今日呼んで説明するには、なぜ他の施設は現状維持なのかという理由を納得するようなデータを出すのが大事だと思う。

**【行政改革推進課：南雲課長】**

施設を再配置するにあたっては、現状維持であってもこういうことで現状維持していきたいという考えがあって、この方向性を出しているので、施設ごとの例えばゲートボールハウスに関しては、1つ1つ理由をここでお答えすることができないが、先ほどの公の施設のデータの内容も含め、事務局を通して皆様にお示ししていきたい。

**【熊木会長】**

データの件だが、いつぐらいの目途になるのか。それは郵送で送って貰えれば結構なので、目途だけお聞きしたい。

**【行政改革推進課：南雲課長】**

お示しする内容も、事務局と相談させていただき、1、2週間の間に紙ベースでお送りさせていただければと考えている。

**【熊木会長】**

基本的なこととして施設には必要度があるから、そのバランスを13区も含めて旧市



とどれだけ整合性がとれているのかが私から見ると感じる。やはりその辺は、先ほど高橋邦夫委員も言われたが、非常に人口が増えていて、そういった中で不自由している部分もある。そこは合併時の約束事があるなら別だが、その辺はどのようなバランスで見ているのか。人口に対して施設の数で見ているのか。収支を見ても均衡が取れるわけがないから、その収支バランスをどこまで税金で容認しているのかを示してないではないか。収支均衡を見てと言葉で言うが、100円の収入に対して1,000円までだったら上越市では容認できる、というような数字を見ない限りは、どこを見て均衡なのか。それを含めて、文書で出していただきたい。

他にないか。

#### 【高橋邦夫委員】

これは再配置計画で、施設の方向性ということで現状維持というのは、施設をそこに置いておくというレベルではないか。その施設を継続するというのは、ただ施設が令和12年までであるというレベルか。

先ほど、だんだん老朽化してくるということで更新費用やメンテナンスの費用の例として雨漏りが出てきたが、雨漏りが出ているような施設の現状をそのまま維持しているのは現状維持とは言わないと思う。

最初の使い勝手が良いものを現状維持として、施設が残された時にその施設が、どのようにメンテナンスできて更新されていくのか。施設だけ残っても、結局、直してくれないのでは、どんどん駄目になるだけの話である。

施設を残したいのなら、その施設が、特に有田区を対象としているのであれば、有田区地域協議会を中心にしていろんな団体が一所懸命に活用方法について考えるが、市民全体を相手にしたような施設だと、私たちだけでは動けない部分がある。そんなところを私たちは話題にしなければならないし、考えなければならないということを頭においていただきたい。そうしないと、ただ施設がある、ないというレベルで、再配置計画を語られると、それこそビジョンのない単なる金を減らすためだけの計画案という気がしてならない。

#### 【高橋秀樹委員】

すごく大事なことをお話しいただいたが、それぞれ建てた時の目的があるにも関わらず、カルチャーセンターの例で見ると、例えば1階に図書室みたいなどころがあるが、冷暖房がいつの間にか使えなくてもそのまま放置してある。それを現状維持というのか。

何をもって現状維持というのが1番気にかかっている。雨漏りもあるかもしれないが、何年か前まで使っていて、もう駄目になって、そのまま使わないままにいること自体がおかしいのではないか。それが皆さんの言う現状維持というのなら、そこは少しおかしい。現状維持とは、今、壊れたままのことを現状維持というのか。もともと目的があって、そういうのが設置されたものを、きちんとメンテナンスをかけて直すことを現状維持と言うのか。その辺の概念とコンセプトがしっかりしていないと大きな間違いを起こす。建屋は現状維持だが、この部屋はちょっと使えないといって冷暖房を止めてこの部屋は使わない。それでも現状維持と言われたら地元はたまらない。だから、そういうところを簡単に現状維持と一言で言うのではなく、直すものは直さないといけなと思う。

**【行政改革推進課：南雲課長】**

個別の施設の状況であるので、所管の社会教育課にしっかり伝えさせていただきたい。

**【高橋秀樹委員】**

担当課はみんな知っている。だが手を加えていない。雨漏りも2年も3年も放置していて、直接言いに行ったこともある。カルチャーセンターの周りのアスファルトがはげているのも気づいていたが、動いてくれなかったので言いに行ったら直してもらった。そういうところが私は心配だから、現状維持と一言で片づけないでほしい。

**【行政改革推進課：南雲課長】**

私のほうから冒頭ご説明したように、現状維持という中では、当然施設を皆様から快適にご利用いただくというのが大前提かと思う。ただ一方では、今ほど雨漏りの件で話があったが、直ちに躯体に影響しないようなものであれば、少し先送りするというのも施設によってはあるかもしれない。現状を見ていないので、中途半端なことは申し上げられないが、いずれにしても施設をしっかり維持していくというのが、私たちの大切な仕事かと思うので、個別に今お話いただいた部分はしっかり社会教育課に伝えさせていただく。

**【熊木会長】**

他に質疑等がないので、終了とする。

— 行政改革推進課・スポーツ推進課 退室 —

**【熊木会長】**

次に「その他」について事務局へ説明を求める。

**【小池係長】**

次回の地域協議会だが、現在、諮問等の案件は入っていない、日程は会長と調整し皆さんに開催日をお伝えしたい。

**【熊木会長】**

他に何かあるか。

**【高橋秀樹委員】**

先ほどの公の施設の再配置の件で私が一番心配しているのは、施設が使えなくなる理由の一番大きな点は、利用者が減ることだと思う。例えばカルチャーセンターやテニスコート等に、どうやって人から来てもらい、使ってもらおうかという仕掛けをしない以上は人が集まらない。それを考えると、地域協議会が課題として取り上げるかどうか分からないが、このカルチャーセンターやスポーツ公園をどうやってみんなに活用してもらおうかという仕掛けが必要で、どこかでそういうプロジェクトみたいのを作りながらやっていかないといけない。心配なのは4、5年後である。カルチャーセンターは活用していないから、やめようという話が普通に出てくるのではないか。それがちょっと心配だ。

**【熊木会長】**

ただいまの意見に関してだが、基本的に地域協議会の中での今後議論になるのではないかと思うので、次回以降の中で時間がとれるようであれば意見を求めながら考えていきたいと思う。今年度の地域協議会が何を審議テーマにするかということも、次回以降皆さんの意見を集約できるかと思うので、よろしくお願ひしたい。

**【小池係長】**

現在、急ぎの協議案件はないが、年内にもう1回は会議を開きたいと思っている。案件がなくても、地域の課題についての意見交換していただきたい。また、高橋秀樹委員からも少しお話していただいたが、こういうテーマで審議したらどうかというように、どのようなテーマで話し合ったら良いかというのを、次回協議会までにまたお考えいただければと思う。

**【熊木会長】**

- ・会議の閉会を宣言。

**9 問合せ先**

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。